

日程：2018年2月1、2日 各部会
3、4日 総会

場所：SANJOTEC、サン・ジョアン・デ・マデイラ、ポルトガル

総会参加国：25か国、7か国が委任（初日）25か国、8か国が委任（2日目）

アルジェリア、オーストリア、ブラジル、ブルガリア、中華人民共和国、台湾、クロアチア、
チェコ共和国、フィンランド、フランス、マケドニア、ハンガリー、イタリア、日本、
ノルウェー、ポーランド、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロベニア、スウェーデン、スイス、
トルコ、イギリス、アメリカ合衆国。

委任（カナダ→アメリカ合衆国、デンマーク→フィンランド、エストニア→スウェーデン、
ギリシャ→ブルガリア、香港→台湾、タイ→中華人民共和国、アルバニア→マケドニア）

FAI 関連

- 1) エアゲームズツアーは各委員会から前向きな動きがないのと、開催地も積極的ではないようで、少し小休止の様子。
- 2) 次回の WAG は 2020 年 9 月にトルコで開催される可能性が大きい。最終決定は 2 月の FAI 理事会で決定か。
- 3) アジアで航空スポーツが発展する機運が高い。うまく発展していけるように FAI としても協力していく。来週 AFA (Airsports Federation of Asia) の会議がフィリピンで開催される。
- 4) 2021 年 7 月バーミンガムで開催されるワールドゲームズにスカイダイビング、キャノピーパイロティング、パラモーターが行われる予定。
- 5) 2022 年中国で開催されるアジア大会でスカイダイビング、室内スカイダイビングが行われる可能性大。

CIVL 全体関連

- 1) 有給の事務局員（エレナ・フィロノヴァ）を雇った。タイムリーに CIVL ホームページに情報をアップ、フェイスブックも管理する。理事会メンバーが変わっても流れをしっかりと把握して、やるべきことが継続してできるようにする。
- 2) アジア大会は、いろいろと難題があるが CIVL はサポートしてゆく。FAI としての公認にかかわらず WPRS ポイントを与える方向。
- 3) CIVL の運営業務をオンラインで自動化できるようなソフトウェア（公認申請、スポライチェック、大会スケジュールの掲載、WPRS の算出）を 6 か月以内に開発する予定。CIVL の予算を使用して FAI、および模型委員会とも協力して（昨年 FAI が主導して開発するような話であったが、なかなか実現しないので、CIVL が主導して）行く。予算に関しては理事会にゆだねる。
- 4) NAC がいない国でのプロモーション、大会の開催をどうやって可能にするか FAI と協議してゆく。
- 5) CIVL がライブラッカー170個購入した。カテ1大会（カテ1大会のテスト大会でも）で使用する。エレナが管理運用する。
- 6) アクセラシーパッド（コントロールパッド含む）を購入し、カテ1大会で使用できるようにする。
- 7) ソフトウェアの開発が思うように進展しない。責任者が必要。集計ツールを FS から SeeYou へ 2017 年 5 月までに移行する予定であったが未完了。SeeYou で確実に集計ができるようになるまでは FS を延命させる。FS を継続して開発するためにオープンソース化させる。
- 8) 重大事故が起きた際のガイドラインが FAI 規定として明確にされており S7 で「それに従わなければならない。」とされているが賠償責任問題がかかわるので「それを理解し従うことを考慮しなければならない。」に変更する
- 9) チャンピオン防衛条件で参加したチャンピオンは、「選手権主催国は国別ランキングトップの国と同じ数の選手を参加させることができる」との文言に影響しないことを S7 に明記する。
- 10) 例外規定（参加資格に合致しなくても参加できる規定）は残すがこれは参加するための抜け道的なものでは決していない。非常にレアなケースとして認められることがあるのみ。ま

たこれまではスクリーニング委員会（例外を認めるか審査する委員会）は理事会が、選手代表、チームリーダー代表、理事会代表の3者を任命していたが、今後は、対応する委員会（HG、PG、PG アクチュラシー）の委員長の同意を得て全て理事会が選任することとする。またこのプロセスにスチュワードが関与することとする。

- 1 1) カテ 1、カテ 2 どちらもスポライの有効性はオンラインでチェックするものとする（オンラインで登録するのは NAC の責任であり、NAC がオンライン登録した時点でスポライは有効になる）。
カテ 1 大会では陪審委員長がチェックする。カテ 2 では NAC が責任をもってチェックする（CIVL はノータッチ）。
大会結果が正しいかのチェックをして期限内に FAI に結果を送るのは NAC の責任である（NAC が大会主催者でない場合は、大会主催者に正しい結果を期限内に送らせるのは NAC の責任である）。
FAI 公認が受けられなかった理由が大会主催者の責任でない場合（特殊な場合）は、CIVL はその大会に対して WPRS ポイントを付与する権利を留保する。
- 1 2) 選手権のエントリー費に関してこれまでは国別ランクトップの国だけが FAI に直接送付することになっていたが、これでは必要な経費を賄えないので、トップ 2 位までの国が FAI に直接送付することとした。
- 1 3) スチュワードの仕事が増えてきているので、CIVL が支払う日当を現在の 50 ユーロから 100 ユーロに値上げする。
- 1 4) ジュリーハンドブックを改定してジュリーが主催者を手助けする（大会結果に影響することや後で抗議の原因となりそうなことはできない）ことができるように改定する。
- 1 5) カテ 2 大会公認は大会開始 30 日前までに CIVL から FAI に送らなければならないことになっている。したがって CIVL 大会コーディネーターにはそれなりの余裕をもって申請書類（申請書および公認料送付証明書）を送ること。
- 1 6) ロシアからの提案（ジュニア選手権）に対して、作業部会を立ち上げ、実際に運用できるものかをチェックして次回の総会で提案するという条件で取り下げられた
- 1 7) 韓国からの提案（大会結果を NAC を通して 期限内に CIVL 大会コーディネーターへ送ることに文言を変更する）は、NAC の裁量であるので、特に変更する必要はないとの判断が下された。
- 1 8) 財務報告と予算案は承認された。
- 1 9) カテ 2 大会で海外選手のエントリーは大会開始の 2 週間前まで受け付けられるようになっているが、現実的にそれでは短すぎるので、適切な措置を取るよう理事会が考えて次回総会に提案する

HG/PGXC 関連

- 1) リーディングポイントは現在 110 点（2016 年以前）と 220 点（2017 年）の選択制（本来は 220 点にフィックスされていたが 2017 年イタリア開催の PGXC 世界選手権においてチームリーダーブリーフィングで覆され 110 点とした経緯がある）であるが、これにもっと多くの選択肢を持たせる（110、137.5、160、192.5、220）ことにする。ちなみに PWC は約 180。
- 2) 昨年ブルガリアから提案のあった新しいリーディングポイント計算方法（円錐を使ったもの）は過去の成績でシミュレーションした結果、満足できると判断されたため、FS において選択できるようにして実際のカテ 2 大会でベータバージョンによるテストと明記して試行することとする。
- 3) 距離計算において、FS 上で FAI 球体と WGS84 エリプソイドを選択可能とする。HG では 2019 年に WGS84 に移行する予定で、それまでは FAI 球体を使用する。PG では WGS84 を使用。
また、許容誤差を現在の 0.5% から 0.05% に変更する。ただし、少なくとも 5m の許容誤差を設定するものとする。
- 4) カテ 1 大会における GAP パラメーターとしてノミナル距離を 45 km、ノミナル時間を 90 分とする提案は取り下げられた。
- 5) CIVL が承認するフライトレコーダーの仕様（カテ 1 大会、記録で使用できる）が決められ

- た。メーカーが使用に沿っていると宣言すれば承認する形 (CIVL が検査するわけではない)。
- 6) ドイツからの提案 (ストップされたタスクの成立を 60 分という時間ではなく全選手の飛行距離がノミナル距離の 20% を超えたら成立する) は取り下げられた。
 - 7) ドイツからの提案 (チームスコアは実際のタスクでの点ではなく、そのタスクの勝者を 1000 点にノーマライズした点を採用する) は取り下げられた。
 - 8) ブラジルからの提案: 現行の WPRS システムはヨーロッパの選手に有利になっているので、その他の地域の選手に不利にならないようにシステムを改定する方向でワーキンググループを立ち上げることにする。
 - 9) 飛行禁止空域 (高度のみ) に関してのペナルティを段階的な減点率に変更する。境界の外 XX m から境界までに侵入した場合、0% から YY% まで徐々に減点率が変わり (直線的に)、境界から 30 m までに侵入した場合、YY% から 100% まで徐々に減点率が変わる (直線的に)。XX と YY はローカルルールに明記する。
 - 10) 雲中飛行を防止するために、スタート前に高度制限を設ける提案は取り下げられた。
 - 11) XC 選手権において、開会式を土曜日に行い閉会式を 13 日後の土曜日に行うこと、テスト大会は開会式を日曜に行い、閉会式を 6 日後の土曜日に行うことを推奨するとの文言を S7A に追加する。
 - 12) 記録を狙いやすくするために、記録飛行が行われる国の NAC の管理下でなくても行える (行われる国の NAC に前もって通知するだけ) ように CASI に提案することが承認された。
 - 13) カテ 2 大会の成立に関して設けられていた参加最低人数 (10 人) を削除する。

HG 関連

- 1) ESS を取ってゴールできなかった場合、現在は時間得点はゼロだがこれをデフォルトは時間得点の 80% (2016 年以前と同じ) とするがローカルルールで決めることにする。
- 2) 安全上の理由 (グライダーの視認性の向上) から、視認しやすい色のゼッケンを両翼 LE に張り付けること。グライダーのノーズコーンを視認しやすい色でマーキングすることでも代用可。
- 3) SAFE PRO DELTA は承認された。
- 4) クラス 2 選手権において補助動力を発行の手段として導入する提案は、エンジンを途中で使った場合のペナルティなどに検討課題が残るので HG 部会で持ち帰り扱いとし、取り下げられた。
- 5) ライブトラックの配信遅延時間は最大で 10 分とする。その数値はチームリーダーの 3 分の 2 以上の承認が必要となる。
- 6) カテ 1 大会の最大参加選手数を安全上の理由から 125 人とする (すでに決定してる大会には適応しない)。
- 7) 第 8 回クラス 5 世界選手権の国別参加人数とチームスコアに対する提案 (各国 6 人チーム、スコアはベスト 3 人) はローカルルールで決定することで取り下げられた。

PGXC 関連

- 1) CCC 改定案 (これまでは XS サイズ (最大飛行重量 90 kg) を独立した機関で強度および飛行試験をすることになっていたものを S サイズでも良しとする。ただし XS サイズは製造し製造者で飛行試験に合格させなければならない。理論的なライン強度は 23G とする。測定が安定してできるものだけ (ライン長、ライザー長、アクセルレンジ) を規定し、これまで規定されていたスパン、トレーリングエッジ長、アスペクト比などは温度、湿度など多くのパラメーターにより再現性が乏しいので規定しない。) は承認された。
- 2) これまでは裸体重に +33 kg までのバラストを積むことが許されていたが、安全にテイクオフできる条件付きで 95 kg までバラストを積むことを可能とする。
- 3) FS 以外にも最新のコンパチェックもスコアリングプログラムとして承認する。
- 4) SAFE PRO PARA に関連して、SIV をできる環境にあるなら推奨するといった文言に改定 (賠償責任問題を考慮して) する。
- 5) SAFE PRO TANDEM は作業部会を立ち上げ検討する。

PGアキュラシー関連

- 1) S7C 案 (アキュラシー関連) は承認された。2017年版と変更になった主な箇所
 - ・世界選での女子枠は最低でも各国1名とする (これまでは2名)
 - ・世界選では女子 WPRS ランキングで異なる国籍のトップ5人は NAC が承認すれば参加可能とする (実際の運用に関しての細則が必要と思われたが、次回世界選手権の開催前に次回 CIVL 総会があるのでそれ迄に協議することでそのまま通した格好)
 - ・世界選のチームメンバーは4人 (それぞれの性別から最低1名) とする (これまでは7人 (同一性からは5人))
 - ・制限風速は6 m/s とする (ただしエリアによって安全であるならばローカルルールで7 m/s とすることも可)
 - ・2019年からターゲットにおける風速は、ランディングエリアにいる選手・チームリーダーが常時視認できなければならない (カテ2も含む)
 - ・カテ1大会の測定フィールドの半径は5mとし、それ以下とする場合はローカルルールに明記する (カテ2大会では半径を10mとすることは可)。
 - ・公認大会では無線機は必携とする
 - ・カテ2大会におけるジャッジの経験に関して
 - a) チーフジャッジ: 過去3年間において FAI 公認大会でイベントあるいはチーフジャッジをしたことがある
 - b) イベントジャッジ: 過去3年間において FAI 公認大会で2回ターゲットジャッジをしたことがあるか、イベントあるいはチーフジャッジをしたことがある
 - c) ターゲットジャッジ: 過去2年間において国内ジャッジトレーニングに参加したことがある
 - ・カテ2大会において記録の公認には、少なくともカテ1ジャッジが最低1名いなければならない

PGアクロ関連

- 1) S7B 案 (アクロ関連) は承認された (いくつかのマヌーバーとその加点方法を削除)

その他

- 1) HG ディプロマはオーストラリアからの申請で、ハンググライダーの起源となるボートトローイングでカイトを飛ばさせていたボートドライバーのパット・クロウへ送ることは承認された。
- 2) FAI スポーツメダルは
 - 第20回クラス2世界選手権 (フランス) の主催者
 - 第21回クラス1世界選手権 (ブラジル) の主催者
 - 第15回 PGXC 世界選手権 (イタリア) の主催者にそれぞれ送られる。
- 3) 次回の総会開催場所マレーシアから希望が出されているが、今のところ100%確実ではないので理事会で判断することにする。
- 4) 2020年カテ1大会の承認
 - 7th FAI European Paragliding Accuracy : Sibiu, Romania (日程は WAG とバッティングしないように調整)
 - 16th FAI European Paragliding XC : Pantelej-Nis, Serbia (日程は WAG とバッティングしないように調整)
 - 1st FAI Asian-Oceanic Paragliding XC : Bright, Australia (日程は12月5~19日、テストは2019年12月にブライトオープンとして開催する)
 - 以下の大会は立候補なし
 - 4th FAI Pan-American Paragliding XC
 - 3rd FAI World Paragliding Aerobatic
 - 21th FAI European Hang Gliding XC
 - 14th FAI Women World Hang Gliding Class 1
 - 21st FAI World Hang Gliding Class 2
 - 9th FAI World Hang Gliding Class 5
 - 2nd FAI Asian Oceanic PG Accuracy